

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	農学研究科	専攻・コース	農業経済学専攻
入 試 方式	一般入学試験、 外国人留学生入学試験		試験科目	基礎科目 経済学	
「出題の意図」					
経済学の基礎的な知識と理解を問う。					
「解答」または「解答例」					
【解答例】					
問 1					
(1) 規模の経済					
企業や農業経営の規模が大きくなると、生産物 1 単位あたりの生産費が小さくなることを規模の経済という。たとえば、稲作経営では、経営規模が大きくなるにつれて、米 60kg あたりの生産費は低下する。稲作経営の大規模化が政策的に推進される前提として、規模の経済の存在があげられる。					
(2) 逆選択					
売り手が有する製品の質に関する情報と、買い手が有する製品の質に関する情報に格差がある状況を情報の非対称性と呼ぶ。逆選択は、情報の非対称性が生じている状況において、買い手が本来選択するはずの質の製品とは異なる、質の低い製品を選択してしまうことをいう。					
(3) 外部経済効果					
対価を支払わずに得られる利益は、外部経済と呼ばれる。こうした外部経済によってもたらされる効果が外部経済効果である。たとえば、農業の多面的機能は、消費者が対価を支払わない形で、大気浄化や洪水防止といった利益をもたらすため、外部経済効果であるといえる。					
(4) エンゲルの法則					
家計費に占める飲食費の割合は、家計費総額が大きいほど低い傾向にあることをエンゲルの法則という。これは、食料の多くは必需財であり、その需要の所得弾力性が 1 以下であるためである。					
(5) 現在バイアス					
現在バイアスとは、異なる時間軸上の点において、一貫性を持たない行動のことをさす。たとえば、農産物の収穫直後で、現金に比較的余裕がある時点で、肥料購入のために現金を残すことが合理的であると認識しているにもかかわらず、実際に数ヶ月が経つと、肥料代を飲食費に使ってしまっており、肥料を購入することができないといった行動のことである。このような行動は、時間軸を通じて一貫した時間選好率に基づいて行動する					

という、経済学における伝統的な合理性の仮定に反する行動である。

問 2

(1)

【解答例】

食料需要の価格弾力性が、他の財の需要の価格弾力性と比べて、相対的に低い。これは、食料が他の財と異なり、生命維持に不可欠な財であり、必需財としての性格を強く有することがあげられる。このため、需給の小さな変化に対して、大きな価格変化が生じる。ゆえに、食料品の価格は他の財と比べて、変動が大きい傾向にあるといわれる。

(2)

【解答例】

農業が環境に及ぼす影響には、市場を通じてもたらす影響と、市場を経由せずにもたらす影響がある。ここでは、農業が市場を経由せずに環境に及ぼす影響について述べる。こうした影響として、正の外部効果と負の外部効果とよばれるものがある。正の外部効果として、たとえば、農業が大気浄化機能や洪水防止機能といった多面的機能をあげることができる。負の外部効果として、たとえば、化学肥料の大量利用による地下水汚染をあげることができる。日本では、農業の多面的機能がもたらす外部効果が、年間数兆円にのぼるとする結果が過去に示されている。農業が環境に及ぼす影響には、市場を介さないもたらす影響、つまり外部性を伴う点にその特徴がある。

合否判定の方法及び基準

入学試験は農学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。